

平成 28 年度研究成果情報

課題名:サルボウの斃死リスク軽減のための移植試験

[背景・ねらい]

サルボウは有明海で漁獲される二枚貝の一種で、佐賀県では、タイラギやアゲマキと並ぶ重要な二枚貝である。

漁獲量は、平成 2 年の 1 万 5 千トンピークに減少し、近年では 2 ~3 千トンで推移している。その一つの要因として、貧酸素、高水温、低塩分による斃死が発生しているため、対策として平成 26 年度に斃死リスクマップを作成した。

この斃死リスクマップをもとに、リスクが高い漁場に生息するサルボウをリスクが低い漁場に移植することにより、斃死リスクの軽減効果について検証を行った。

[成果]

移植に用いたサルボウは、平成 28 年 5 月～7 月に、図 1 に示す斃死リスクが高いレベル 4 の漁場(以下、採捕区)でジョレンを用いて採捕した。採捕したサルボウは、直ちに目合い 4 分(約 12mm)のふるいで選別し、ふるい落ちた個体を斃死リスクが低いレベル 2 の漁場(以下 移植区)に移植した。

追跡調査は、平成 28 年 8 月、10 月、12 月、平成 29 年 1 月、2 月の計 5 回、移植区と採捕区をジョレンで一定面積曳航してサルボウを採捕し 1 m²当りの生息密度を算出した後、8 月の生息密度に対する各月の生息密度割合を求め比較した。

生息密度割合の推移を図 2 に示した。

10 月以降の生息密度割合は、移植区では 28~47%で推移したが、採捕区では、0~9.6%と低位で推移した。このことから、今回の試験では、斃死リスクが高い漁場に生息するサルボウを、リスクが低い漁場に移植することにより、斃死を軽減できることが確認された。

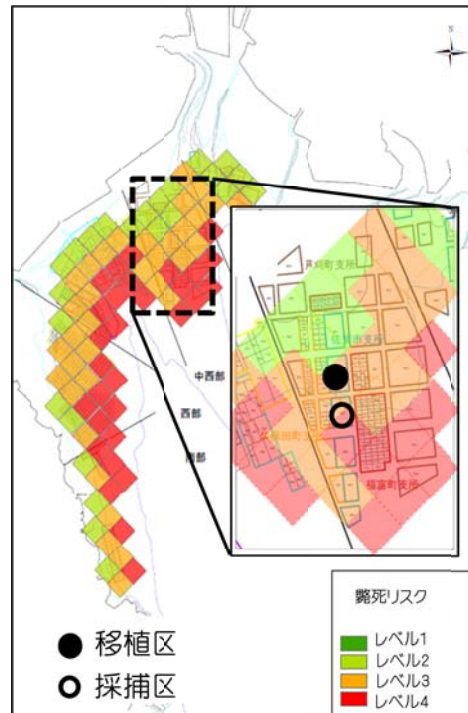


図 1 調査地点

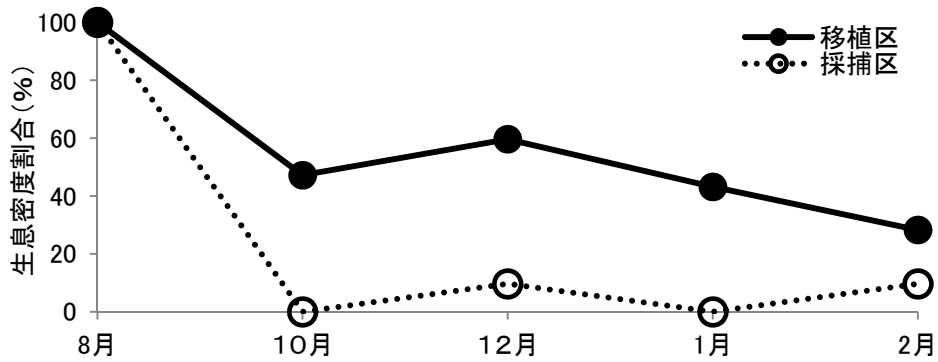


図2 移植区及び採捕区の生息密度割合の推移

[課題・問題点]

今回、斃死リスクが高い漁場に生息するサルボウを、低い漁場に移植することで斃死を軽減できることを確認したが、漁業者への普及が進んでいない。

[今後の対応]

平成27年度に設立したサルボウ安定養殖推進協議会等で今回の結果を報告し、漁業者への普及を図り、サルボウの安定生産に結びつけていく。

[その他]

研究期間：平成28年

研究担当者：普及担当 津城啓子